



救急車が必要かな…と困ったとき

救急車の適正利用について耳にすることが多くなりました。

当本部でも昨年は2,000件を超える救急事案があり、その数は年々増加しています。しかし、実際にそのような状況に陥った場合に救急車が本当に必要か判断することに不安を抱えている方は多いと思います。そこで、その判断の手助けになるものを紹介します。

<早急に救急車を呼ぶべき症例>

- ・呼吸をしていない
- ・脈がない、心臓が止まっている
- ・水没している、沈んでいる
- ・冷たくなっている
- ・呼びかけても反応がない
- ・普通に話せない、ろれつが回らない
- ・顔色、唇、耳の色が悪い
- ・冷や汗をかいている



全国版救急受信アプリ「Q助（きゅーすけ）」

急な病気やけがをしたとき、該当する症状を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が表示されます。その後、119番通報、医療機関の検索や受診手段の検索を行うことが出来るようになっています。



- 1 緊急度の高い症状選択**
- 2 年代選択**
該当する年代を画面上で選択します。
- 3 症状選択**
該当する症状を画面上で選択します。
- 4 結果画面**
緊急度に応じた必要な対応が表示されます。
「いますぐ救急車を呼びましょう」
「できるだけ早急に医療機関を受診しましょう」
「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」
「引き続き、注意して様子を見てください」

消防庁HP

<http://www.fdma.go.jp/>
「Q助」のQRコードはこちらから！



救急受診ガイド

それぞれの症状によって緊急度や重症度が分かるだけでなく、どの科目を受診すれば良いかを細かく記載しています。

茨城県救急医療情報コントロールセンター

休日や夜間に救急対応している医療機関をお探しの方など、オペレーターがお近くの医療機関を24時間体制で電話で案内しています。

☎029-241-4199

気を付けよう！急性アルコール中毒

本当に怖い!!

悲しいことに、全国的にみても若年者を中心とした飲酒後の突然死は例年報告があります。お酒の飲みすぎが死につながるケースは、大きく分けて4つのパターンがあります。

1. 飲酒 → 嘔吐 → 吐しゃ物が詰まって窒息
2. 飲酒 → 呼吸が弱くなって止まる → 酸欠
3. 飲酒 → 酔ったことによる事故
(階段からの転落や交通事故など)
4. 慢性的な大量飲酒による病気（肝硬変など）
このうち1～3が急性アルコール中毒によるものです。



症状とは？

血中アルコール濃度が上がるにつれて出現する症状が異なります。

- ・0.1%未満：気分が良くなる、ふらつく
- ・0.1-0.2%：判断力が低下する、情緒不安定（泣き・笑い上戸）
- ・0.2-0.3%：ろれつが回らなくなる、歩行困難
- ・0.3-0.4%：意識障害が出始める、失禁、呼吸が弱く不定期になることがある
- ・0.4%以上：強い痛みにも反応しない昏睡状態になる、呼吸が止まることもある
※個人により、差があります。

飲みすぎて倒れてしまったら…誰でもできる応急処置を！

もし飲みすぎて倒れてしまった人がいる場合、誰でもできる応急処置があります。

- ・呼吸の確認：普段通り、ゆっくりでも定期的な呼吸があることを確認する
- ・嘔吐の対応：もし吐いても、喉に詰まらないように横向きで寝かせる
- ・一人にしない：常に誰かが変化を見守る

このような状況に陥らないためにも、適度な飲酒を心掛けましょう。



今年度も「救急医学と健康講座」を開催します！

対象：小学5・6年生、中学生

期間：平成30年6月～12月

詳しくは、消防本部総務課まで ☎53-1152

■問い合わせ■
消防本部 ☎54-0119